

2006年3月期 中間決算説明会資料

2005年10月24日

「選択と集中」により経常利益が過去最高

 株式会社日立ハイテクノロジーズ

執行役社長 林 將章

【お問合せ先】

社長室 IR専門部長 芥川 達哉

TEL : 03-3504-5138 FAX : 03-3504-7123

E-mail : akutagawa-tatsuya@nst.hitachi-hitec.com

## < 発表目次 >

2006年3月期中間決算ハイライト	3
. 2006年3月期 中間決算概要	
2006年3月期中間決算経営成績	6
2006年3月期中間決算の偏差	8
損益計算書	9
貸借対照表	10
. 2006年3月期 業績予想	
2006年3月期業績予想	12
四半期別売上高・営業利益の推移	14
経営の基本方針	15
製品別動向(半導体製造装置)	16
(液晶関連装置)	19
(ライフサイエンス)	22
(商 事 部 門)	23
. データ集	
四半期決算の推移	25
設備投資額・減価償却費・研究開発費	26
主要製品群別売上高の動向	27

## 2006年3月期中間決算ハイライト

### 1. 2006年3月期中間決算業績要旨

(金額: 億円)

	金 額	前回予想比	前年同期比
売上高	4,249	+ 8 %	13 %
営業利益	157	+ 45 %	1 %
経常利益	137	+ 33 %	+ 3 %
当期利益	76	+ 38 %	+ 5 %

全項目で7月の第1四半期決算時の予想値を上回る

前年同期比では、経常利益・当期利益が増益

- 経常利益は過去最高を達成 -

## 2006年3月期中間決算ハイライト

### 2. 2006年3月期業績予想要旨

(金額: 億円)

	金 額	前回予想比	前年比
売上高	8,430	+ 2 %	10 %
営業利益	293	+ 40 %	2 %
経常利益	272	+ 36 %	+ 5 %
当期利益	163	+ 44 %	+ 9 %

全項目で7月の第1四半期決算時の予想値を大幅に上回る

前年比では、経常利益・当期利益が増益

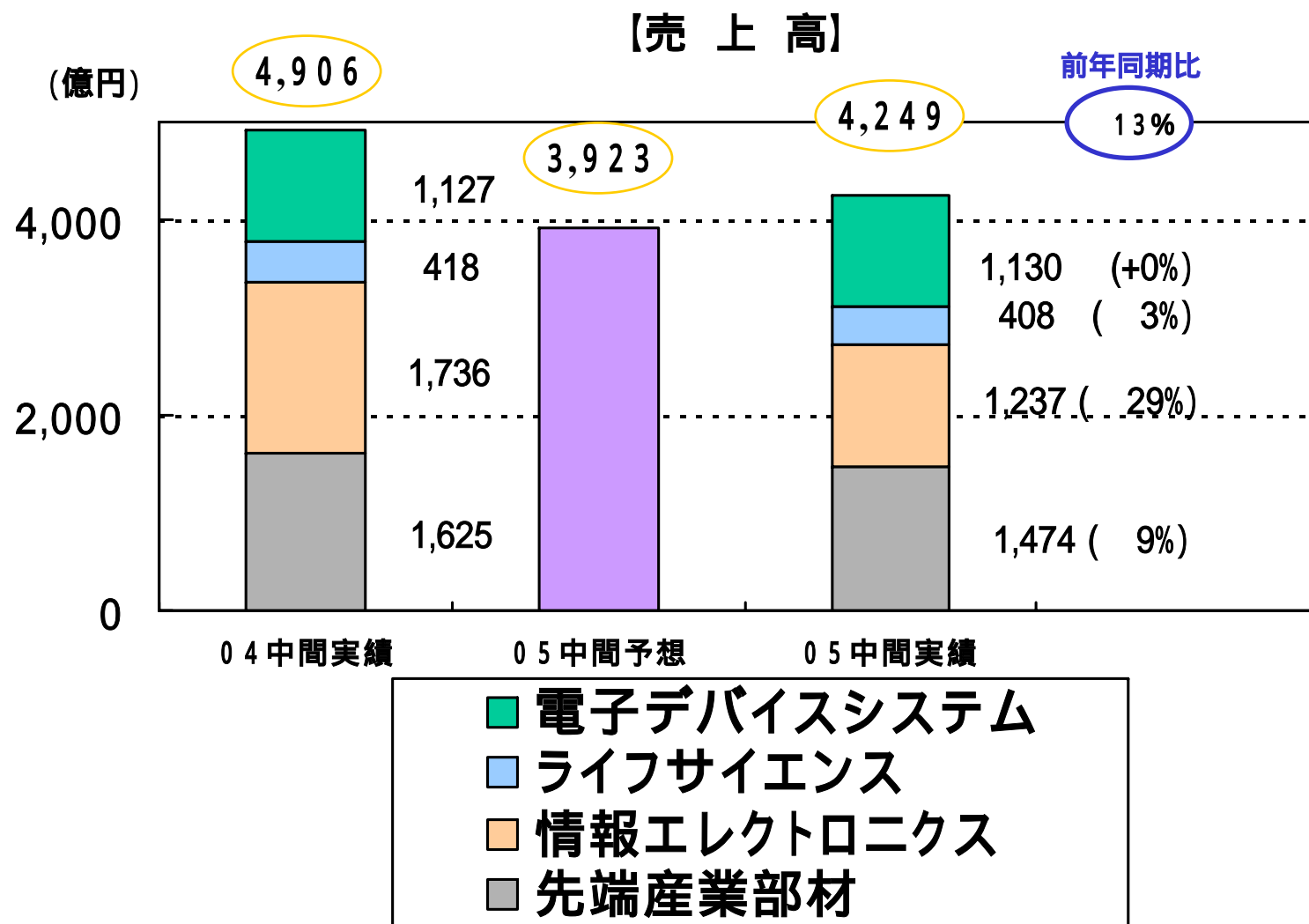
- 二年連続過去最高の見通し -

# . 2006年3月期 中間決算概要

---

# 2006年3月期中間決算経営成績

## 情報エレクトロニクスを中心として前年同期比減収

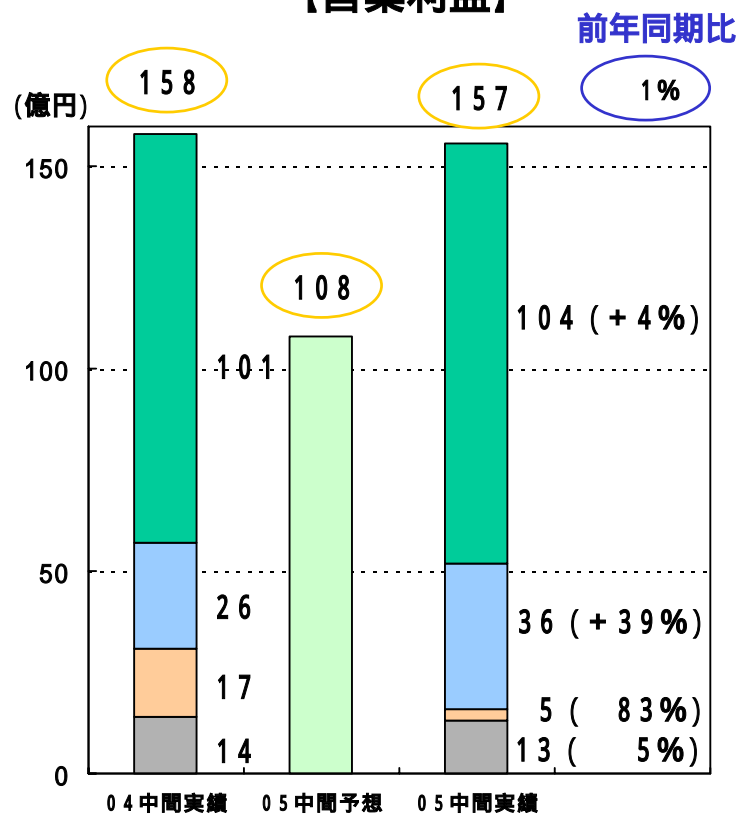


(注) \*05 中間予想は、2005年7月の第1四半期決算発表時の見通しです。\*05 中間実績( )内の数値は対04 中間実績増減比率。

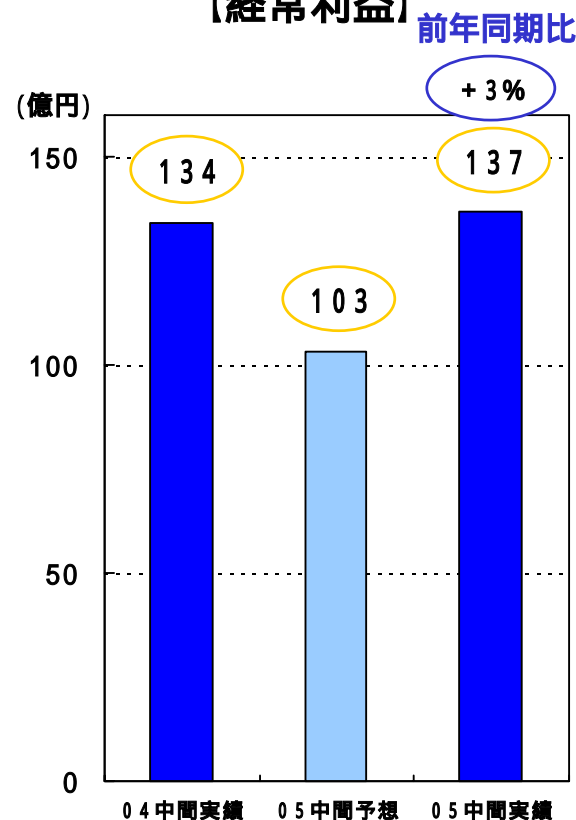
# 2006年3月期中間決算経営成績

営業利益、経常利益、当期利益とも予想値を大幅に上回る

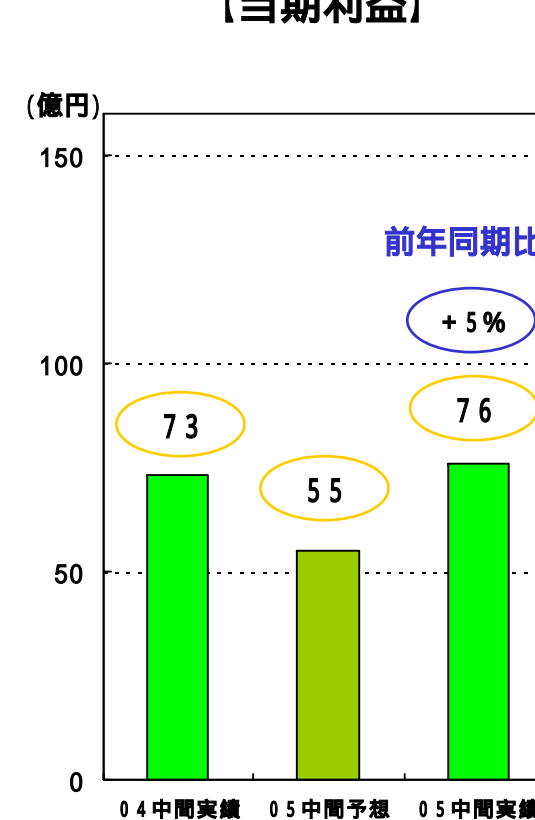
【営業利益】



【経常利益】



【当期利益】



先端産業部材
  情報エレクトロニクス  
 ライフサイエンス
  電子デバイスシステム

(注) \* 05 中間予想は、2005年7月の第1四半期決算発表時の見通しです。\* 営業利益 05 中間実績 ( ) 内の数値は対04 中間実績増減比率。

## 2006年3月期中間決算の偏差

### コア事業への集中とコスト低減が寄与

#### 営業利益の予想値に対する偏差 (+ 49 億円)

売上増加に伴う売上利益の増加	27 億円
円 安 効 果	8 億円
コ ス ト 低 減	14 億円

前年同期比較では、売上高が657億円の減収となるも、事業の「選択と集中」により営業利益は横ばいを確保



# 損益計算書

## 営業外損益、特別損益が改善

(億円)

科 目	05年度 中間期	04年度 中間期	前 年 比 増減率 (%)	前 年 比 増 減 額	主 な 増 減 要 因
売 上 高 売 上 原 価	4,249 3,623	4,906 4,263	13.4 15.0	657 640	情報エレクトロニクス 498 先端産業部材 151
売 上 総 利 益 販 管 費 等	625 469	642 484	2.6 3.2	17 16	人件費 6 雑費 8
営 業 利 益 営 業 外 収 益 営 業 外 費 用	157 12 31	158 16 40	0.8 25.8 21.9	1 4 9	半導体検査装置等の棚卸評価損の減少 8
経 常 利 益 特 別 損 益	137 3	134 8	2.6 -	3 6	減損損失と代行返上益の差額減少
税 前 純 利 益 法 人 税 等	135 58	125 52	7.3 10.9	9 6	
当 期 純 利 益	76	73	4.7	3	

# 貸借対照表

借入金の返済を促進し、残高は47億円に(年度末にはゼロを目標) (億円)

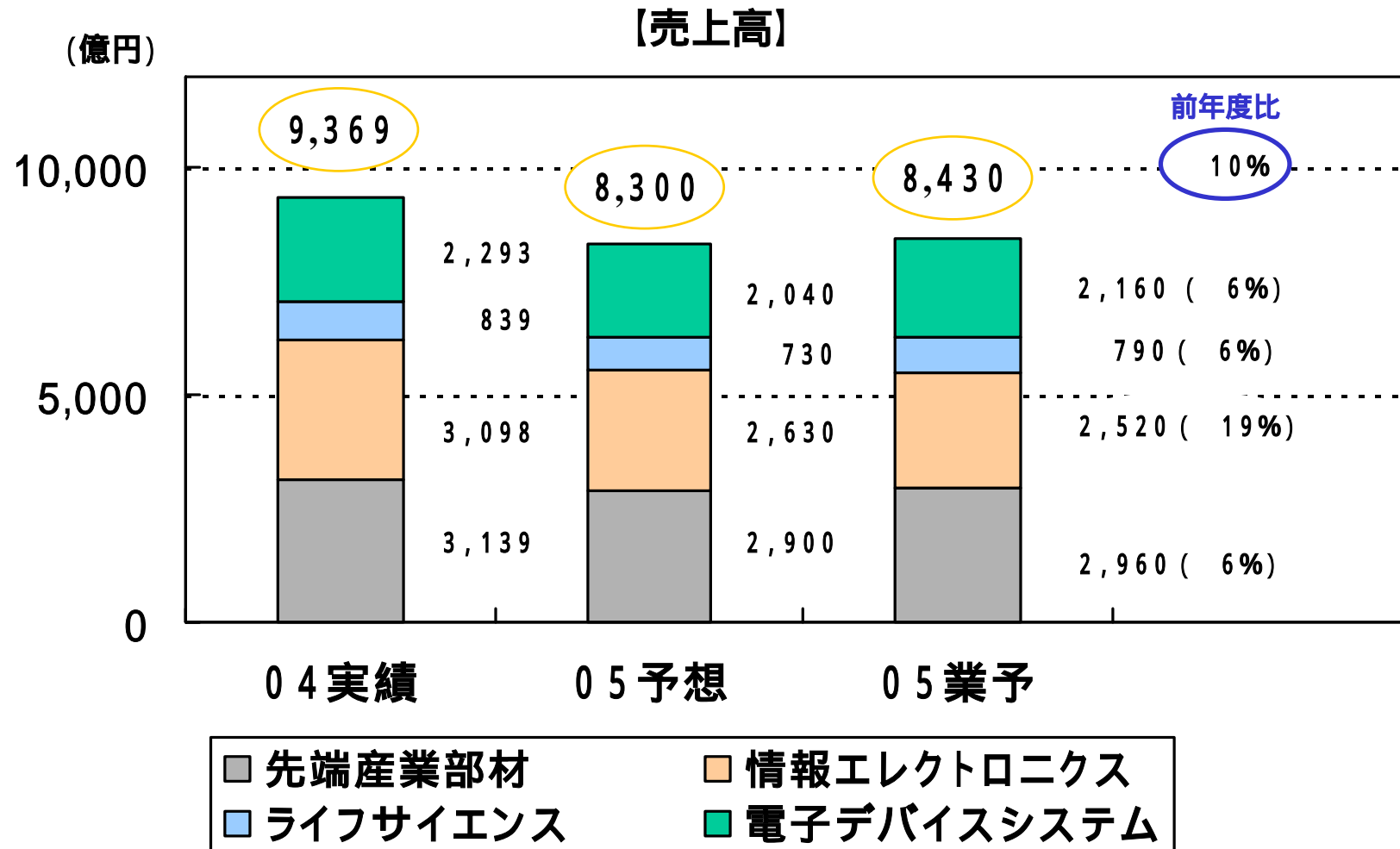
資 産	0 5 / 9	0 5 / 3	増 減 要 因	負債・資本	0 5 / 9	0 5 / 3	増 減 要 因
<b>流動資産</b>	<b>3,264</b>	<b>3,386</b>	LCDドライバ減 マウンタ減  日立ブーリング	<b>流動負債</b>	<b>2,051</b>	<b>2,257</b>	借入金の返済
現金預金	321	461		買掛金等	1,536	1,648	
売掛金等	2,042	2,130		短期借入金	47	99	
有価証券	1	2		未払費用	267	264	
棚卸資産	521	569		その他	201	246	
繰延税金	167	179		<b>固定負債</b>	<b>290</b>	<b>296</b>	
前渡金	17	18		退職給付	277	282	
関係会社預け金	191	30		その他	13	14	
その他	43	36		<b>負債合計</b>	<b>2,341</b>	<b>2,553</b>	
貸倒引当	40	38					
<b>固定資産</b>	<b>930</b>	<b>939</b>		<b>少数株主持分</b>	<b>41</b>	<b>38</b>	
有形固定	556	566		<b>資本金</b> <b>利益剰余金</b> <b>その他</b>	79	79	
無形固定	83	96			1,687	1,626	
投資他	291	277			47	29	
				<b>資本合計</b>	<b>1,813</b>	<b>1,734</b>	
<b>資 産 合 計</b>	<b>4,195</b>	<b>4,325</b>		<b>負債・資本 合 計</b>	<b>4,195</b>	<b>4,325</b>	

# . 2006年3月期 業績予想

---

## 2006年3月期業績予想

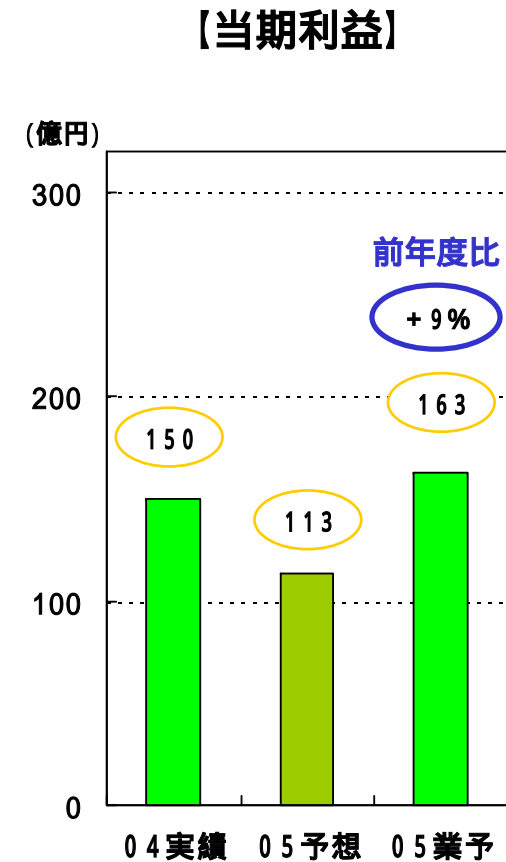
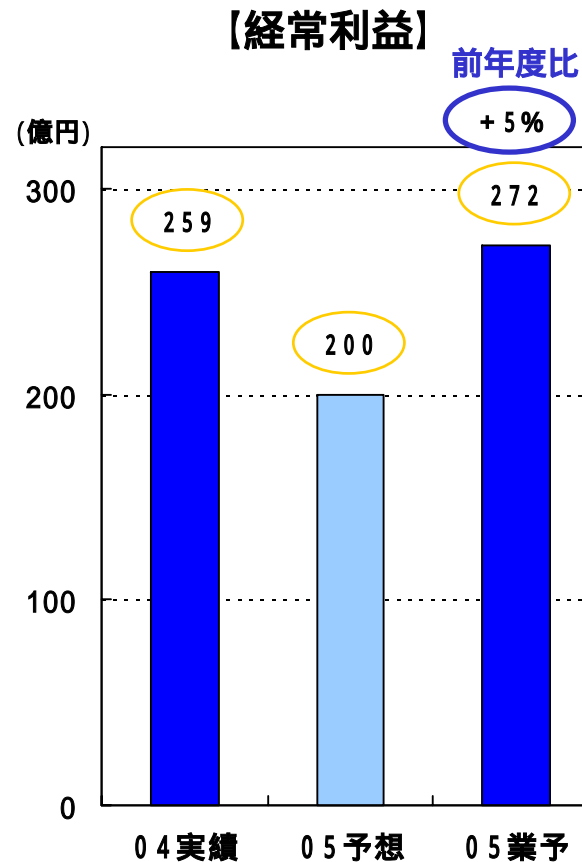
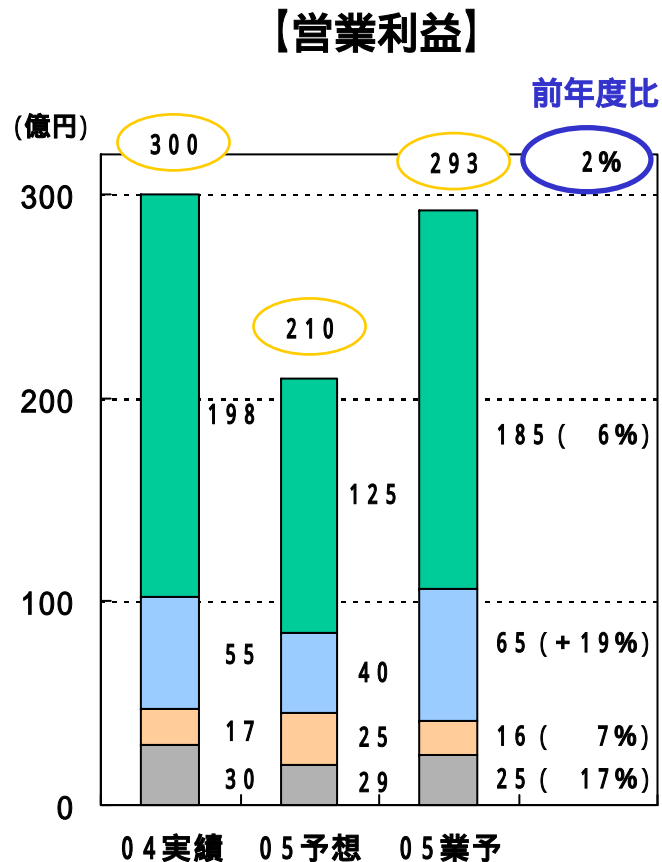
情報エレクトロニクスを中心として前年比減収



(注) \*05 予想は、2005年7月の第1四半期決算発表時の見通しです。\*05業予( )内の数値は対04実績増減比率。

# 2006年3月期業績予想

自社製品の販売強化により利益予想を大幅に上方修正

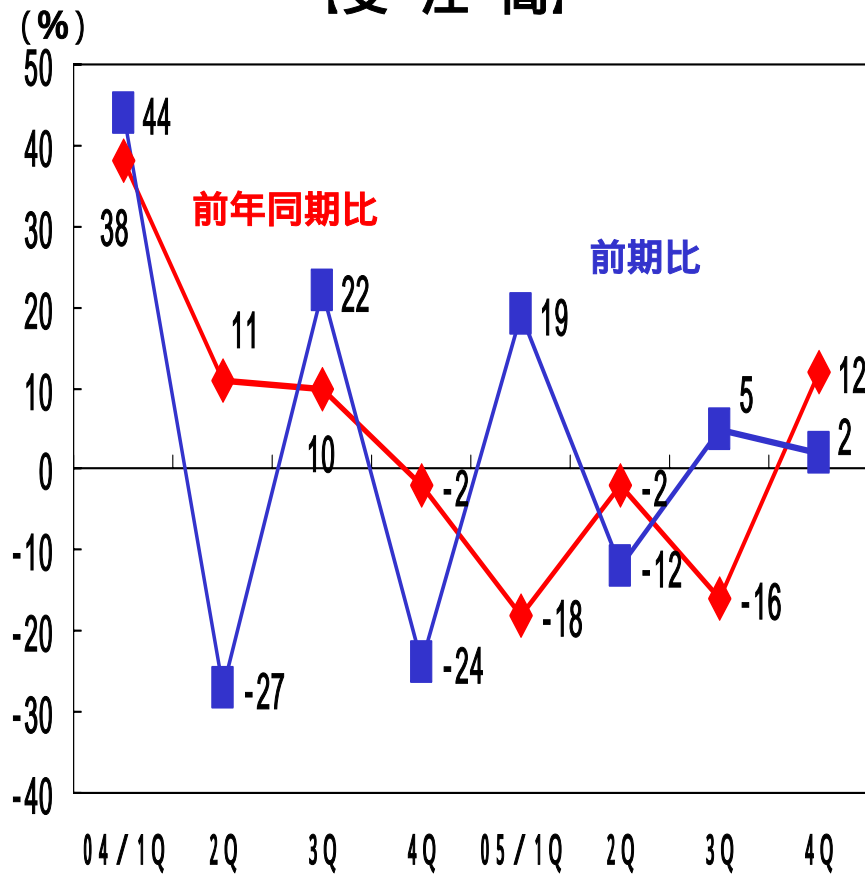


(注) \* 05 予想は、2005年7月の第1四半期決算発表時の見通しです。\* 営業利益 05業予( )内の数値は対04実績増減比率。

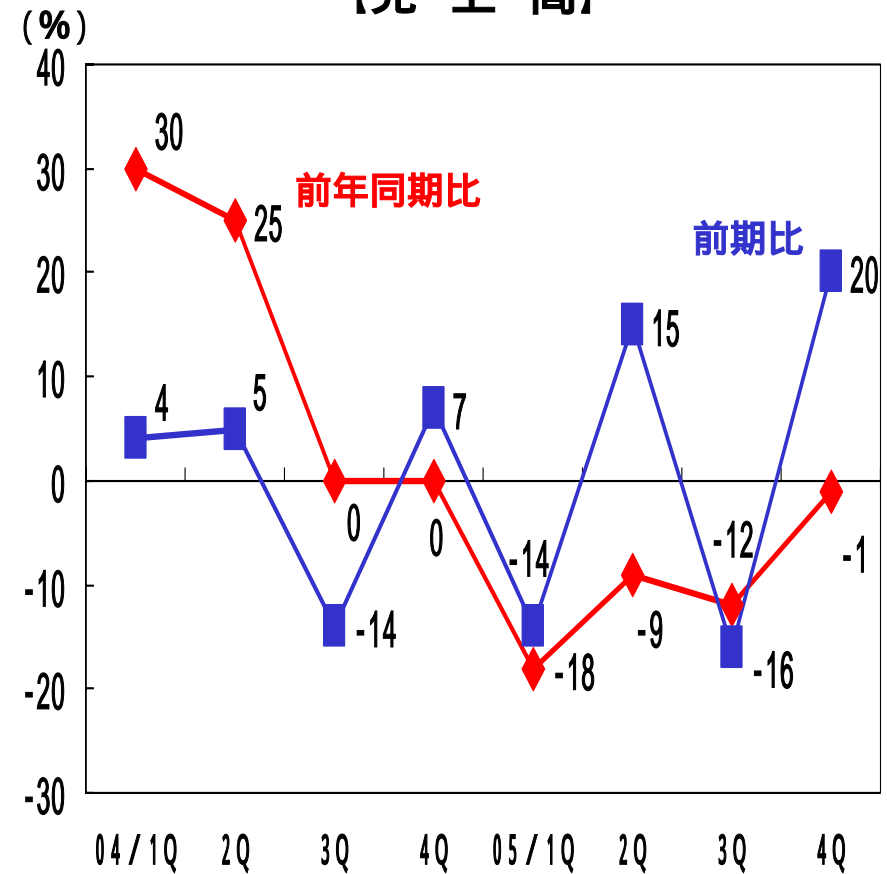
## 四半期別受注高・売上高の推移

05 / 3Q・4Qの受注高(対前期比)は二期連続での増加の見通し

【受 注 高】



【売 上 高】



(注) \* 受注高については、単独数値、売上高については、連結数値で表記しています。

## 経営の基本方針

市場の伸びを上回る高成長企業の実現に向けて

### 基本方針

#### 自社製品部門の高収益化

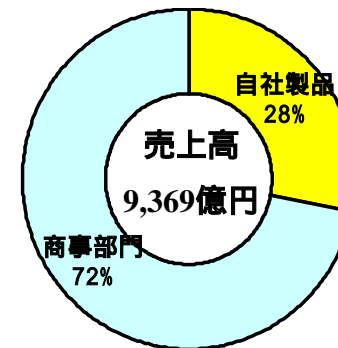
- ・コア事業への集中による収益確保
- ・新製品投入によるシェアの向上

#### 商事部門の事業拡大

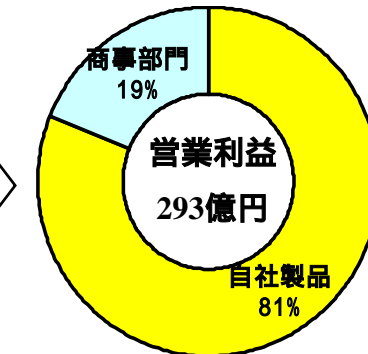
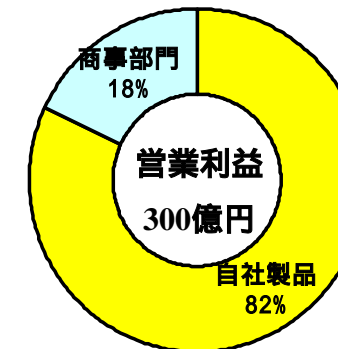
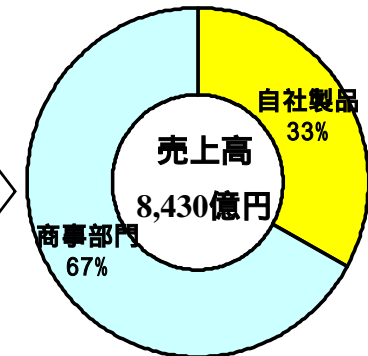
- ・選択と集中による収益性の向上
- ・付加価値提供による事業拡大
- ・グローバル展開

### 構成比率

< 2004年度実績 >



< 2005年度予想 >



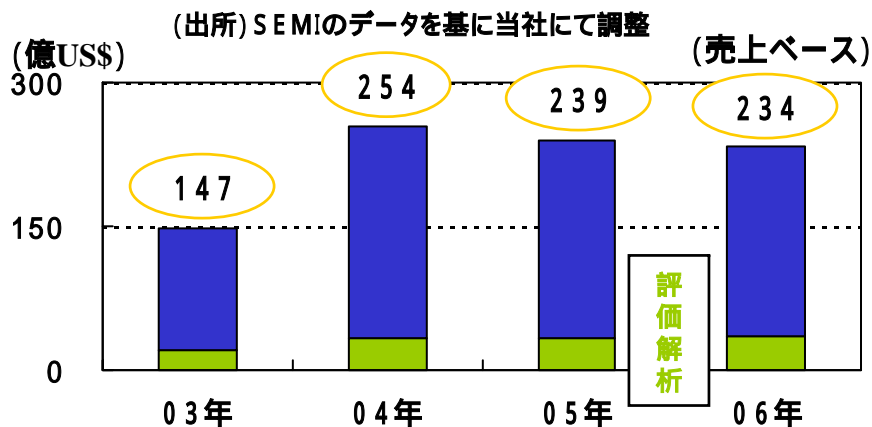
< 営業利益率の推移 >

自社製品	9.2%	8.5%
商事部門	0.8%	1.0%

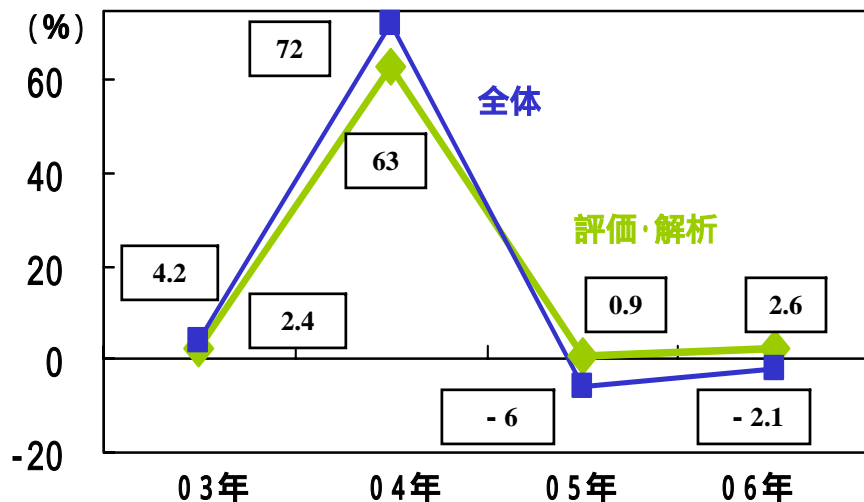
# 半導体製造装置(市場予測と製品別売上)

前年度比で市場は落ち込むものの、当社事業はプラス

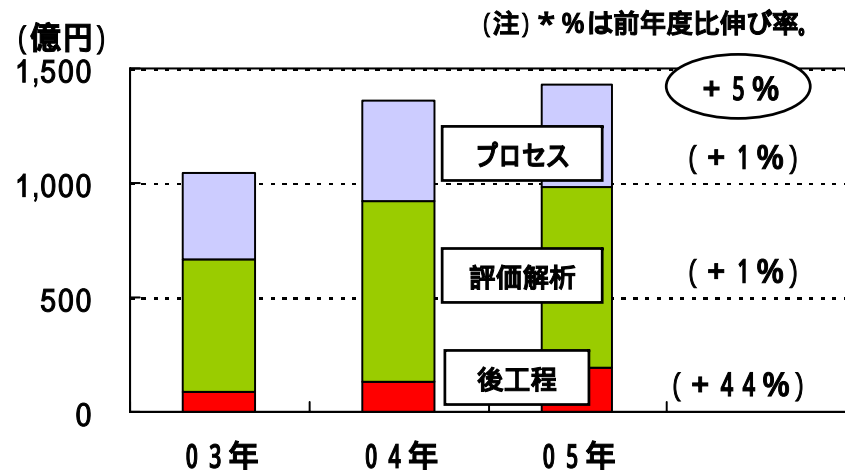
【半導体製造装置市場(前工程)】 (W / W)



【半導体製造装置市場(前工程、前年比伸び率)】



【当社主要製品群売上高推移】



【プロセス装置】 ( )内は対04年度増減率

- ・エッチング装置は市場の投資減により減少( 18%)
- ・露光装置は国内300mm投資案件の取込みで大幅増(+79%)

【評価・解析装置】

- ・測長SEMは市場の投資減により減少( 30%)
- ・検査解析装置は新機種投入と競争力改善で大幅増(+27%)

【後工程装置】

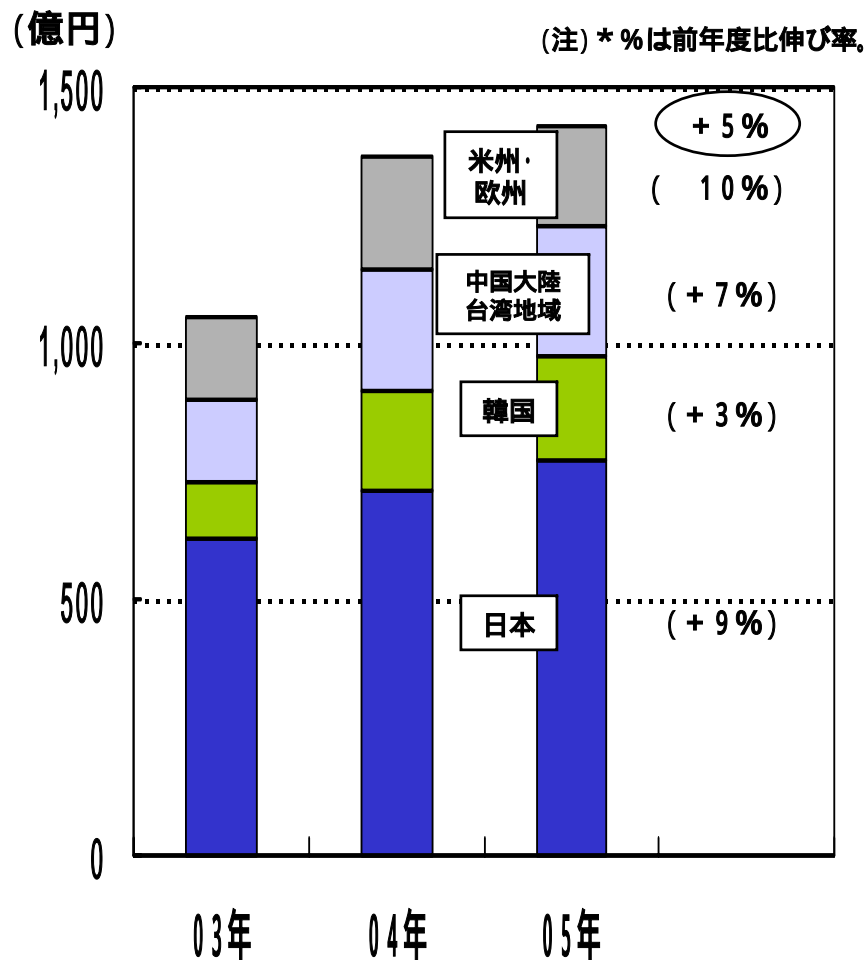
- ・競合力が改善し、大幅増(+44%)



## 半導体製造装置(地域別売上)

### 日本及びアジア地域で事業拡大

【当社地域別売上高推移】



【地域別売上動向】

#### < 日本 >

露光装置の増加で05年度も堅調推移

#### < 韓国 >

評価・解析装置の増加により  
2005年度も堅調推移

#### < 中国大陸・台湾地域 >

評価・解析装置の増加により  
2005年度も堅調推移

#### < 米州・欧州 >

2005年度は減少  
但し、評価・解析装置は増加

## 半導体製造装置(事業戦略)

評価・解析装置分野でのリーディング企業を維持

測長SEMは次世代機の投入とシステムでの差別化により  
トップシェアを堅持

光学式検査装置は、暗視野を中核として事業推進

SEM式検査装置は、特定顧客との共同開発で60～45NM  
製品を先行投入

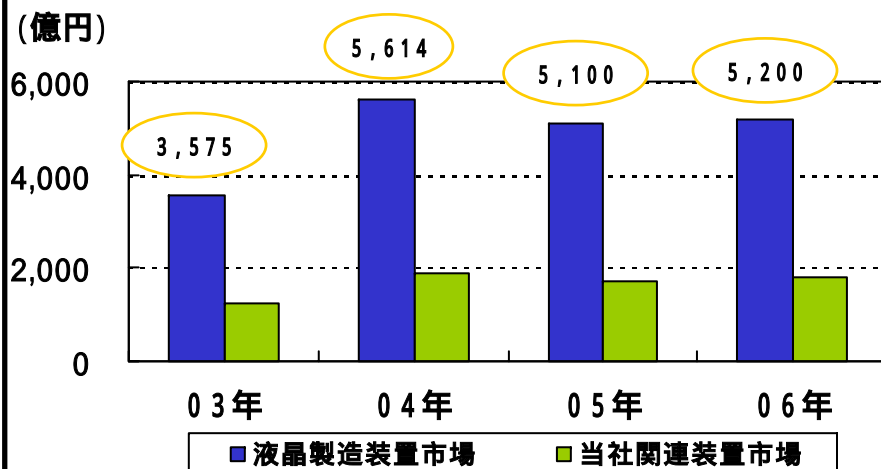
ナプローバは、65nm以降のデバイス対応機により市場浸透

FE-SEMは、半導体から先端材料のナノテク市場への深耕で  
トップシェアを堅持

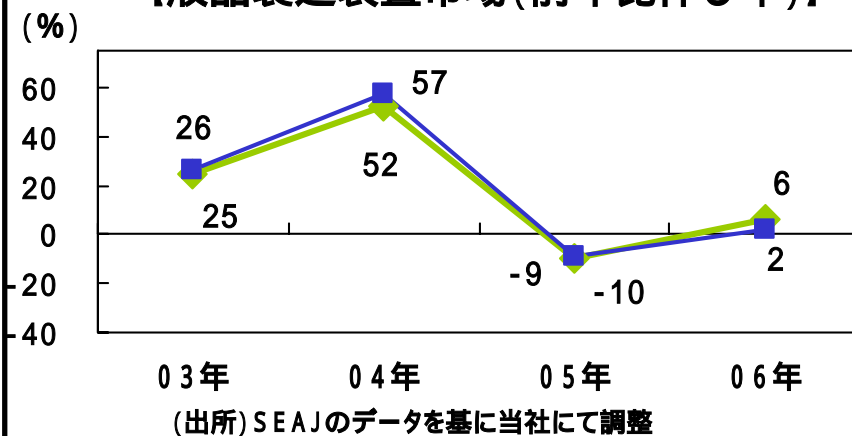
# 液晶関連装置(市場予測と製品別売上)

## ホトリソ工程で事業が拡大

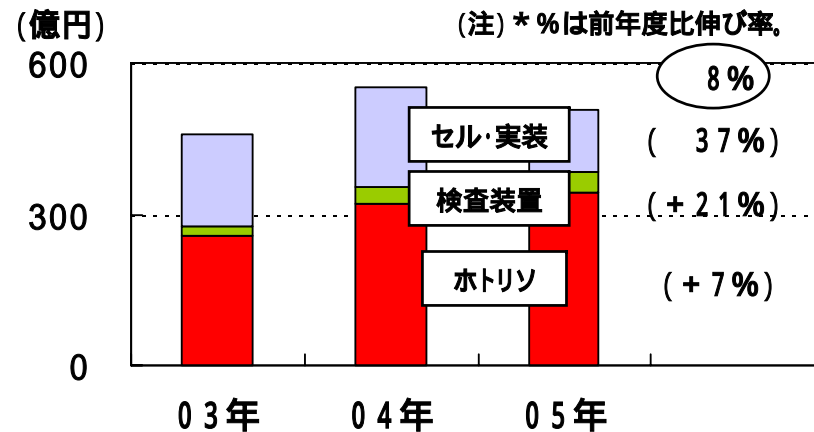
【液晶製造装置市場】



【液晶製造装置市場(前年比伸び率)】



【当社製品群売上高推移】

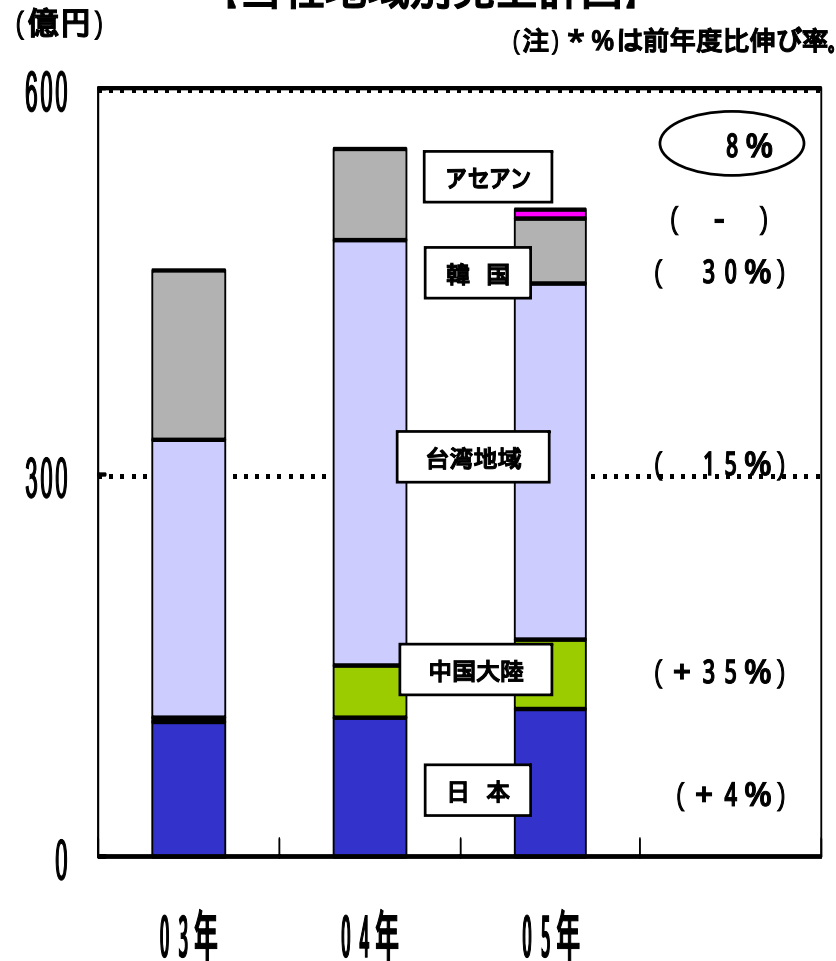


1. 05年度の見通しは市場の伸びとほぼ同じ水準
2. カラーフィルタ関連の堅調な投資により、05年度のホトリソ工程の売上は増加
3. 実装関連投資が04年までに一巡し、05年は踊り場
4. 日立ディスプレイデバイスからの譲受製品(偏光板貼付装置、レーザーリペア装置)は06年から売上に寄与

## 液晶関連装置(地域別売上)

### 中国大陆での事業が拡大

【当社地域別売上計画】



1. 台湾地域の一部メーカーは04年度後半から

05年前半に投資を一時延期した為、

05年の比率は低下

2. 中国大陆の比率は、03年0.7%、04年7%、

05年11%と推移。

今後前工程の中国大陆展開が進み、比率は  
更に高くなると予想

3. 国内大手メーカーの投資により、05年の世界

市場に占める国内比率は23%まで増加

## 液晶関連装置(事業戦略)

### 業界のニーズに応える新製品の継続的投入

#### 1. カラーフィルタプロセス変革に対する対応

- ・ 新技術を採用した製品の開発: インクジェット方式、レーザ直接描画方式

#### 2. 次世代ガラス対応

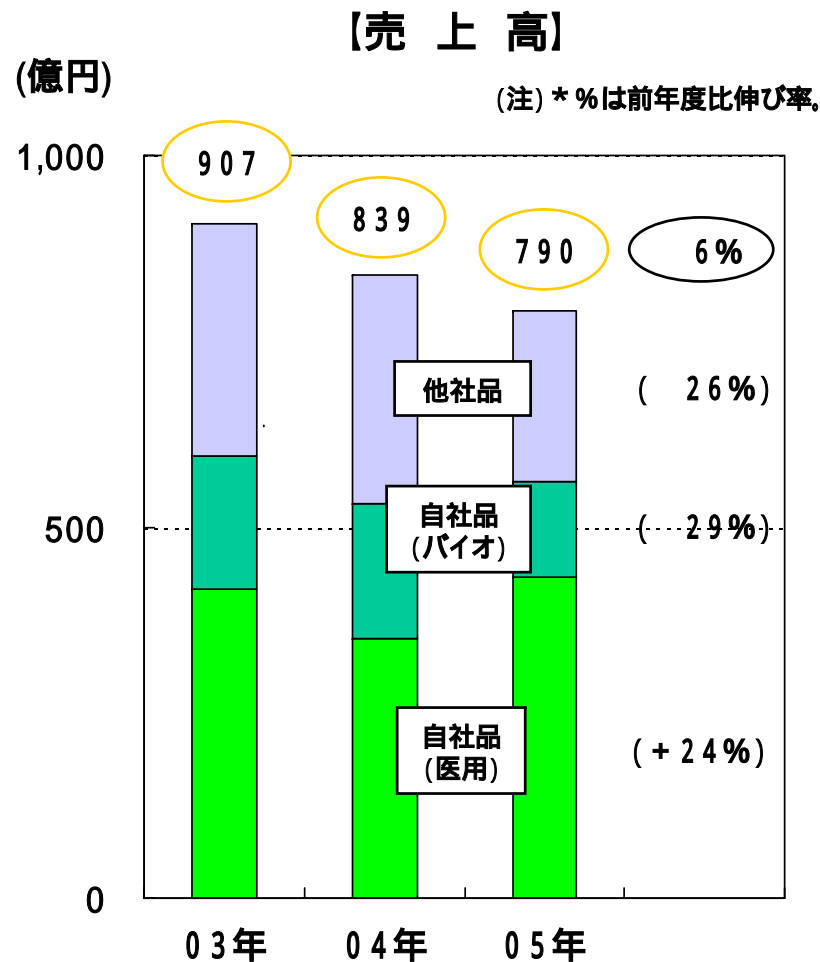
- ・ 第8世代対応装置は開発完了: ウエット装置、露光装置、検査装置

#### 3. パネル実装変革対応

- ・ COG・TAB兼用型モジュール組立装置の投入

## ライフサイエンス(業績動向)

### 自社製品の販売増加により増益の見通し



#### 1. 自社品販売強化により営業利益増

( )内は対04年度増減率

- (1) 生化学・免疫分析装置が欧米を中心に増加(+14%)
- (2) 遺伝子解析装置が増加(+32%)
- (3) 新型生化学分析装置(LST008/003)の投入

#### 2. 今後の展開

- (1) タンパク質解析用LC/MSの機能向上と海外展開
- (2) 成長市場である中国市場での生化学分析装置/試薬システム販売の強化
- (3) 心臓磁気計測システムの早期実績化
- (4) 遺伝子診断システムの開発促進

## 商事部門(2006年3月期業績予想の前年比動向)

### デジタル家電等の価格下落から減収予想

#### 1. 情報エレクトロニクス

家電製品は、米国を中心に50%と大幅に減少

半導体は、デジタル家電等の価格下落の影響を受け、アジア向けLCD  
ドライバーを中心に20%減少

チップマウントは、自動車エレクトロニクスや情報通信分野向けに10%増加

#### 2. 先端産業部材

樹脂・非鉄・特殊鋼などの工業材料は、昨年からの値上げ基調が続いている  
ものの一部の材料には在庫過多もあり、全体としては横ばい

電子デバイス材料は、昨年下半年を底に回復傾向にあるが力強さがなく微増

液晶プロジェクター用光学部品は、年末に向けての回復期待があるものの  
市況は総じて低調で30%減少

# . データ集

---



## 四半期決算の推移

(億円)

	04年1Q	04年2Q	04年3Q	04年4Q	05年1Q	05年2Q
売上高	2,394	2,512	2,155	2,308	1,975	2,274
営業利益	80	78	79	63	47	110
経常利益	79	55	81	44	50	87
当期利益	47	26	51	26	20	56

### <セグメント別売上高>

	04年1Q	04年2Q	04年3Q	04年4Q	05年1Q	05年2Q
電子デバイスシステム	510	617	535	631	523	607
ライフサイエンス	196	222	170	251	196	212
情報エレクトロニクス	881	855	675	687	542	695
先端産業部材	807	818	775	739	714	760

## 設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

	04年度 中間	05年度 中間	前年 同期比	04年度 実績	05年度 予想	前年度比
設備投資額	56	29	48%	108	75	31%
減価償却費	44	41	9%	89	85	4%
研究開発費	89	89	±0%	185	186	+1%

<増減理由> (2004年度 2005年度)

【設備投資額】 33億円減少

・ 那珂事業所の新クリーンルーム棟の建設(2004年度20億円)

(注) \* 設備投資額は取得ベースで記載しております。

# 主要製品群別売上高の動向

(億円)

	04年度中間	05年度中間	前年同期比	04年度実績	05年度予想	前年度比
【電子デバイスシステム】	1,127	1,130	+0%	2,293	2,160	6%
プロセス装置	210	254	+21%	442	444	+0%
評価・解析装置	397	364	8%	789	794	+1%
液晶関連装置	295	286	3%	557	513	8%
その他	225	226	+0%	505	409	19%
【ライフサイエンス】	418	408	2%	839	790	6%
バイオ関連機器	103	106	+3%	194	218	+12%
医用関連製品	175	221	+26%	349	432	+24%
その他	140	81	42%	296	140	53%
【情報エレクトロニクス】	1,736	1,237	29%	3,098	2,520	19%
情報システム	272	253	7%	535	536	+0%
組立装置	189	148	22%	303	308	+2%
半導体	475	376	21%	904	705	22%
メディアデバイス・情報家電	505	242	52%	748	510	32%
その他	295	218	26%	608	461	24%
【先端産業部材】	1,625	1,474	9%	3,139	2,960	6%
工業材料	435	407	6%	839	814	3%
電子デバイス材料	238	184	23%	366	383	+5%
光関連部材	323	189	42%	492	349	29%
その他	629	694	+10%	1,442	1,414	2%

### < 資料取り扱い上の注意 >

本プレゼンテーションで述べられている決算概要及び業績予想は、すべて連結です。

数値情報は、億円未満を四捨五入しています。

増減率は、基本的に円単位で計算しています。

本プレゼンテーションで述べられている将来の当社業績に関する予想は、現時点で知りうる情報をもとに構築されたものです。当社の参画する産業界はテクノロジーの変化が速く、競争の激しい産業です。また、世界経済、半導体市況、為替相場など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、今後、当社の業績が本プレゼンテーションと異なる可能性があることをお含みおきください。但し、大きな変動がある場合は、証券取引所の適時開示規則及び当社の自発的判断等に基づき、その都度公表していく所存です。

以 上